

## 「若者意識調査」アンケート結果に対するご意見

### 【委員意見とりまとめ】

#### (A 委員)

①学年が上がるにつれて「楽しさ」、「将来の明るさ」、「八戸市への愛着」が減っていく。  
遊びに行く場所が中 2 を境に公園や家から商業施設に変化。

→ (仮説) 身近な楽しさから、物への楽しさを感じたとき、もっと多くの物が欲しいとなれば、  
八戸より都会という志向が働く可能性がある。多様な情報に触れたことで、もっと楽  
しい世界を想像してしまう。

⇒ (対策) 八戸での将来のキャリアや明るさ、楽しさ (遊び方) を考える、創る、見せる必要が  
ある

将来のことの情報源が、中 2 から先生の割合が高くなる。高校生はテレビから情報が減る。  
地域のことを知る情報源で、高校生は SNS が半数。

⇒ (対策) 上記については、学校内での活動や、SNS での発信という対策が効果的

②保護者は地域の情報が足りていないうえ、情報源は人からと客観性がない。

⇒学校で情報を子どもに与え、子どもから正しい情報を保護者に伝える

③子どもも保護者も八戸の誇れることに伝統文化と観光資源を上げている。

⇒これらを将来のキャリアや楽しさ (遊び方) につなげることはできないだろうか。

#### (B 委員)

・小学生が感じているわくわくやキラキラのようなもの (未来の明るさなど) を学年が上がっ  
ても失わないようにしたい

→学年が上がるにつれて楽しさ度が下がることから

・学年が上がるにつれて、教師からの影響が大きくなる

・高校生は中心街にも来る

・「自分の好きなことや専門性」を保護者も子どもも重視している

→市内のどこで、どんなコンテンツで専門性や興味を見つけるのか

- ・自由記述で沢山具体的な意見がこどもからでているのだから、子どもの意見がもっと直接反映されるようになるのはどうか
- ・抽象的な意見になるが、「若い世代にこれから目を向けていきたい」「若い世代の意見を実現していきたい」という思いを強くその世代に届けたい
- ・若者からの意見に対して「今あるものを～」「探せば～」「あなたが知らないだけで～」とこちらからの回答を打ち返すのではなく、受け止めたい

#### (C 委員)

- ・成長し視野が広がっていくにつれ、「明るい未来が思い描けない」「親や地域からの愛着度が低いと感じている」「八戸市への愛着が薄れる」傾向にあるので、「八戸で明るく楽しく、豊かな生活を送る」というイメージを「地域ぐるみ」「産学官連携」体制で、子供に伝えていく必要があると思う。
- ・子供たちが八戸にいながら明るい「将来の夢」を思い描くことができ、さらにその夢に向かってチャレンジできるように行政の立場からサポート（例えば職業体験イベント開催による情報提供や、給付金・クラウドファンディングによる資金援助など）してあげられないものか。

#### (D 委員)

- ①保護者問6で「外国人との交流体験」がどの学年をとっても割合が高い。  
英語必修化などご時世を考えると当たり前ではあるが、個人的にはちょっと意外だった。
- ⇒八戸市国際交流部署や教育委員会としてどのような取組が現段階であるのか知りたく思った。国際交流に関する市独自の施策が検討できないか。
- ・「はちのへ文化のまちづくりプラン」の中に「文化芸術を通じた国際交流の推進」の一項があるが、外国人アーティスト招聘など専門的な内容。
  - ・関わっている情報サイト「はちのへヒストリア」に「外国人居住者の地域紹介」をアップした。八戸の魅力を外国人と共有する機会があってもいいのでは（外の視点を活用する意味で。オンライン活用もあり）。

②生徒「4. 高校卒業後の進路」で、中学1.年から2・3年の間に「まだ考えていない」「大学進学」の割合が動く。しかし「5. 希望職業」の「未定」割合は動かない。

⇒この時期のキャリア教育や体験行事が有効かも。8年間を記録する八戸キッズ版キャリアパスポート的なものも面白いと思う。

・「失敗したがない（段取られることに慣れている）」「叱られ慣れていない」という学生の傾向を見るにつけ、頭が若いうちに人にもまれる経験、できれば継続的に、が必要と思う。

③生徒問17で「人の魅力」割合が全般に少ないところ、高校でさらに減少する傾向にある。親も全般的に低い。「産業都市」割合も非常に低い。（対して、保護者「市内就職希望」割合がどの年代も一定数、「職場体験」の必要性高割合）

⇒これらを改善する施策が必要ではないか。会議で出していたキッズニア的プログラムなど。職場体験の場合、企業とのマッチングやプログラムセッティングが難しく実現しない場合が多いので、学校と企業をつなぐプラットフォームが必要だろう。

（事務局）※クロス分析からの気づき

#### 【小中高生】

・将来の希望居住地について、学年が上がるほど、八戸市内に住みたいと思う人の割合が減っていく。女性に関しては、東北内が一番多く（29.9%）、次いで東京圏（24.8%）と、男性より市外への居住希望割合が高い。

・学校生活が「すごく楽しい」と回答した人は、

- ①未来が明るいと感じている。（67.4%）
- ②親や地域から愛情を感じている。（56.2%）
- ③八戸市に愛着や親しみを感じている。（53.1%）
- ④八戸市のことを知っている。（53.9%）

・将来希望職業で、「建設業や製造業等の第2次産業」を選択した人は、高校卒業後に「就職・就業」を希望する人が多い。（18.6%）

・将来希望職業で、「教育・学習支援業」を選択した人は、高校卒業後に「短大進学」を希望する人が多い。（31.1%）

- ・将来希望居住地で、「海外」を選択した人は、将来人生として、「起業してビジネスを成功させる」を希望する人が多い。(24.6%)
- ・八戸市内に住みたいと思っている人の中で、愛着や親しみを感じている人が多い。(19.1%)
- ・八戸市に愛着や親しみを感じていない人は、東北内、東京圏への居住希望傾向がある。
- ・八戸市内に住みたいと思っている人の中で、「就職」を希望している人が多い。

#### 【保護者】

- ・高校卒業後の進学希望と、就職先については、ある程度同じ回答を選択している傾向。
- ・お子様に「仕事より家庭を優先した生活を送る」を希望している親は、「市内に進学してほしい」と思っている人が多い。(30%)
- ・お子様の人生において、「導くべき」と思っている親でも、高校卒業後の進路については、「本人に任せている」と回答した人が多い。(56.8%)
- ・お子様の未来に必要な体験について、「農作業や収穫体験」と回答した親は、将来希望として、「仕事より家庭を優先した生活を送る」を希望している人が多い。(70%)
- ・八戸市に愛着や親しみを感じている親は、「東京圏で就職してほしい」と思う割合が低い。(40%)